

資料提供
(県政・南部同時)

提供日：平成30年(2018年)11月8日(木)
部局：琵琶湖環境部
所属：滋賀県立琵琶湖博物館
担当：山川千代美・林竜馬
電話：077-568-4811
E-mail：info@biwahaku.jp



LAKE BIWA MUSEUM

日本植生史学会公開シンポジウム 『時空を超えた埋没林・化石林研究の 進展に向けて』を開催します

日本植生史学会と琵琶湖博物館は11月10日(土)に公開シンポジウム「時空を超えた埋没林・化石林研究の進展に向けて」を開催します。

この公開シンポジウムは11月9日(金)～11月12日(火)にかけて琵琶湖博物館で開催される第33回日本植生史学会大会、および現在琵琶湖博物館で開催中の第26回企画展示「化石林 ーねむる太古の森ー」(11月25日(日)まで)の関連行事として企画されたもので、学会員以外の参加も可能です。埋没林や化石林といった太古の森の研究最前線を聞くことのできる機会ですので、ぜひご参加ください。

記

公開シンポジウム

「時空を超えた埋没林・化石林研究の進展に向けて」

主催：日本植生史学会・琵琶湖博物館
日時：2018年11月10日(土) 13:00～15:40
場所：琵琶湖博物館 セミナー室
対象：高校生以上の一般の方
参加費：無料(事前申し込み不要)
内容：

森林の一部がそのままの状態で見つかり、保存された「化石林」や「埋没林」は当時の植生や環境を示すタイムカプセルでもあります。このシンポジウムでは埋没林、化石林に関するこれまでの研究が紹介され、今後の研究の進展に向けたディスカッションも行われます。

公開シンポジウム

「時空を超えた埋没林・化石林研究の進展に向けて」

主 催：日本植生史学会・琵琶湖博物館
日 時：2018年11月10日（土）13:00～15:40
場 所：琵琶湖博物館 セミナー室
対 象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
参 加 費：無料（事前申し込み不要）

趣旨：鮮新世以降の時代は、日本列島の島孤化が進み、地球規模で起きた寒冷化現象の影響を受けながら日本の植物相が移り変わり、現在の植生を形成してきました。各時代の植生や古環境やその変遷過程を捉える上で、現地性である埋没林、化石林は有効な証拠となります。これらは森林の一部がそのままの状態で見つかる状態で地層中に保存されたものであり、いわば当時の森林環境を示すタイムカプセルと言えます。この公開シンポジウムでは、これまでの埋没林、化石林の研究を見直ししながら、時代や空間を超えての研究の進展を考える機会とします。

<スケジュール>

- 13:00-13:40 趣旨説明「日本の埋没林・化石林研究の進展と意義」
辻 誠一郎（東大名誉教授）
- 13:40-14:10 「古琵琶湖層群における鮮新-更新世の化石林研究」
山川 千代美（滋賀県立琵琶湖博物館）
- 14:10-14:20 休憩
- 14:20-14:50 「若狭地域における完新世の埋没木と考古学研究」
小島 秀彰（若狭三方縄文博物館）
- 14:50-15:20 「2つの新しい年輪年代法の登場と日本の埋没林が果たす役割」
箱崎 真隆（国立歴史民俗博物館）
- 15:20-15:40 ディスカッション ―今後の埋没林・化石林研究に向けて―